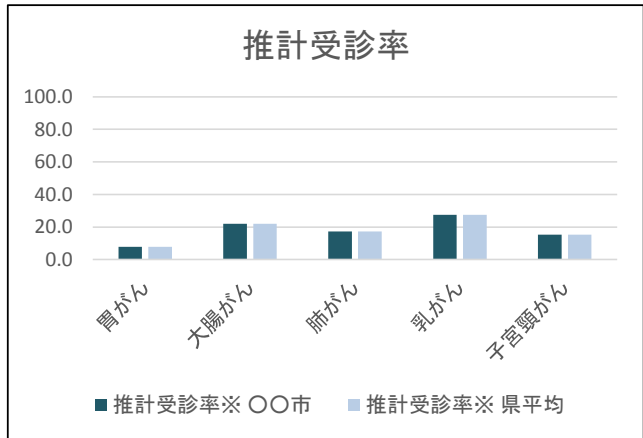
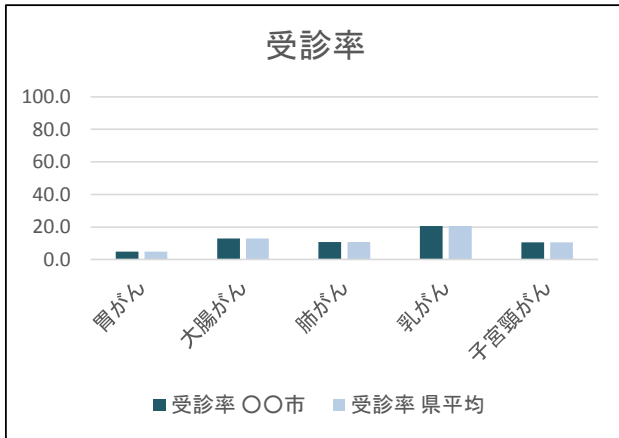


1 平成29年度のがん検診受診率(長野県がん検診実施状況調査(以下「県調査」)) ※40歳(子宮頸がんは20歳)以上

		胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
受診率	○○市	4.8	13.0	10.7	20.7	10.6
	県平均	4.8	13.0	10.7	20.7	10.6
推計受診率※	○○市	7.8	22.0	17.3	27.4	15.3
	県平均	7.8	22.0	17.3	27.4	15.3



※推計受診率は、平成21年3月18日付け厚生労働省健康局総務課長通知「市町村がん検診事業の充実強化について」により算出した。
 【推計受診率 = 当該年度受診者数 ÷ [市町村人口 - (就業者数 - 農林水産業従事者数)] × 100】
 (市町村人口、就業者数及び農林水産業従事者数は、直近の国勢調査のデータを用いている。)

○国のがん対策推進基本計画(第3次)では、受診率50%を目標としています(※目標値となる受診率には、市町村が実施する対策型検診以外の検診も含む)。
 ○がん検診の受診を促進し、がんの早期発見につなげ、がんによる死亡の減少を図るため、貴市町村におかれましても、引き続き受診率向上施策に取り組んでください。

2 平成28年度のプロセス指標値(県調査)

部位	プロセス指標	許容値・目標値	○○市	県平均	備考
胃がん	要精検率	11.0 %以下	10.5	10.5	X線検査
	精検受診率	90 %以上	96.4	96.4	
	がん発見率	0.11 %以上	0.09	0.09	
	陽性反応適中度	1.0 %以上	0.9	0.9	
大腸がん	要精検率	7.0 %以下	7.5	7.5	内視鏡検査
	精検受診率	90 %以上	93.2	93.2	
	がん発見率	0.13 %以上	0.21	0.2	
	陽性反応適中度	1.9 %以上	2.8	2.8	
肺がん	要精検率	3.0 %以下	1.4	1.4	X線・喀痰検査
	精検受診率	90 %以上	92.6	92.6	
	がん発見率	0.03 %以上	0.04	0.0	
	陽性反応適中度	1.3 %以上	2.7	2.7	
乳がん	要精検率	11.0 %以下	8.5	8.5	マンモグラフィ
	精検受診率	90 %以上	96.7	96.7	
	がん発見率	0.23 %以上	0.29	0.3	
	陽性反応適中度	2.5 %以上	3.4	3.4	
子宮頸がん	要精検率	1.4 %以下	1.6	1.6	
	精検受診率	90 %以上	92.1	92.1	
	がん発見率	0.05 %以上	0.03	0.03	

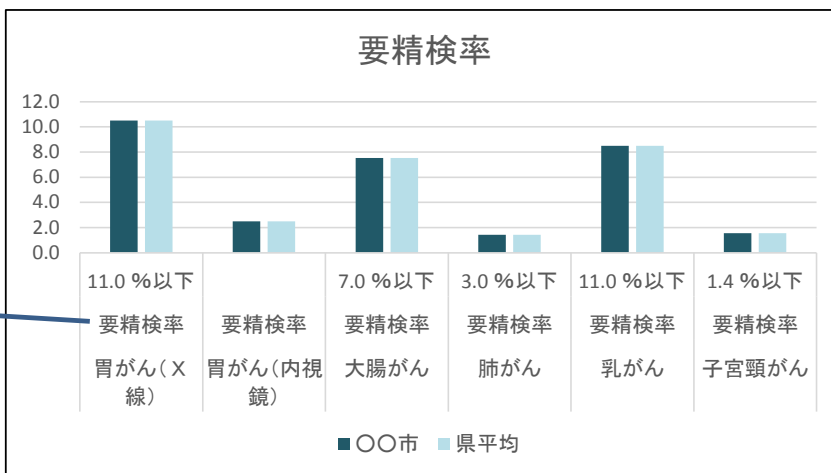
陽性反応適中度	4.0 %以上	2.2	2.2
---------	---------	-----	-----

【要精検率】

精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標

★極端な高値、低値でなく、適切な範囲にあることが望ましい

許容値



★平成29年度における県全体の平均値は大腸がん及び子宮頸がんで 許容値より高値になっています。

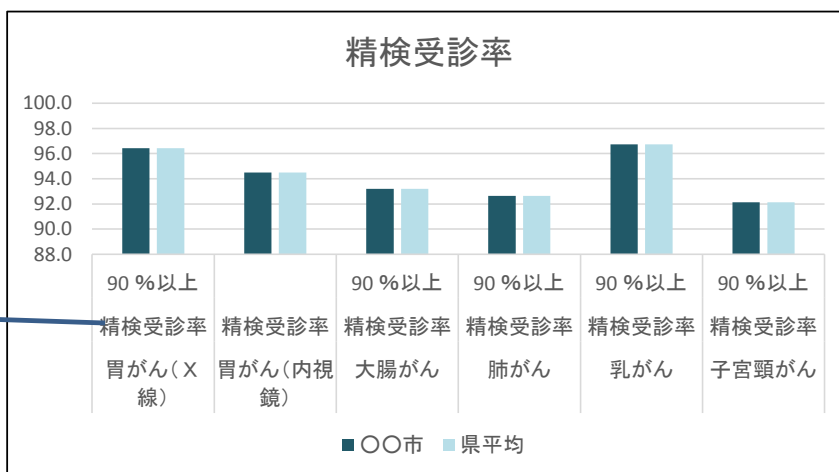
指標値	予想される原因	検討内容
高値	①受診者が有病率の高い集団に偏っている	有症状者が検診を受けていないか(有症状者は診療を受けるよう指導する)、有病率の高い年齢層、有病率の高い初回受診者に偏っていないか
	②偽陽性が多い	各検診機関の要精検の判定基準は適切か(陽性反応適中度が低い場合、本来は精検が不要な者を要精検と判定している可能性がある)
低値	①受診者が有病率の低い集団に偏っている	有病率の低い年齢層に偏っていないか(年齢層、受診歴等)
	②偽陰性が多い	各検診機関の要精検の判定基準、検査手技、読影等は適切か

【精検受診率】

要精検者が実際に精密検査を受信したかを測る指標

★高いことが望ましい

目標値



★要精検者を確実に精密検査受診に誘導するため、精検結果の把握及び精検受診率向上のための取組を行ってください。

特に、乳がん検診で80%未満、その他検診で70%未満の場合、国の示した許容値を満たしていませんので、改善をお願いいたします。

なお、県では、標準的ながん検診の実施体制を定める実施要領を策定し、精密検査結果の返送ルートについて市町村、検診実施機関及び精検医療機関にお示ししています。

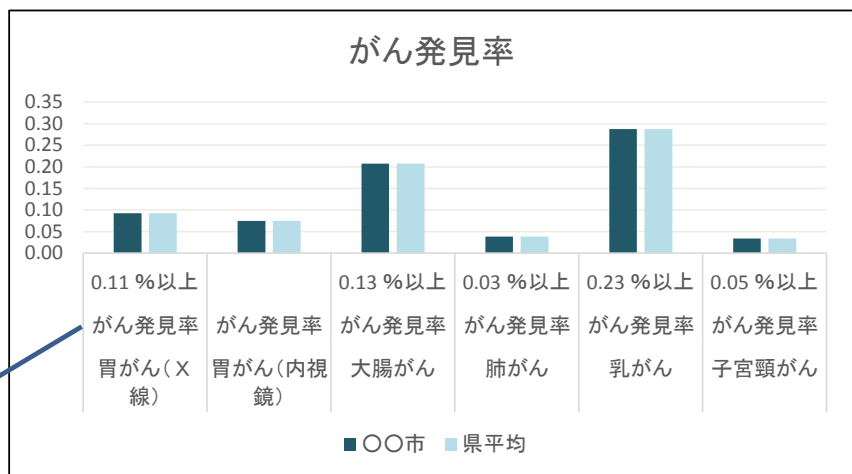
指標値	予想される原因	検討内容
高値	—(100%に近いことが理想)	
低値	①精検受診の有無について未把握が多い	精検受診の有無を確実に把握できる体制が出来ているか
	②精検結果の未把握が多い(もし精検を受診しても、その結果が把握されない場合はカウントできない)	精検結果を確実に把握できる体制が出来ているか(精検結果の報告・回収ルート)
	③精検の受診勧奨が適切でない	受診者に予め「要精検の場合は必ず精検を受けること」を伝え、かつ、全ての要精検者に精検の重要性を十分に伝えているか
	④精検の提供体制が不十分(キャパシティ、アクセス)	精検受診者の利便性

【がん発見率】

その検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標

★基本的に高いことが望ましいが、極端な高値、低値でなく、適切な範囲にあることが望ましい

許容値



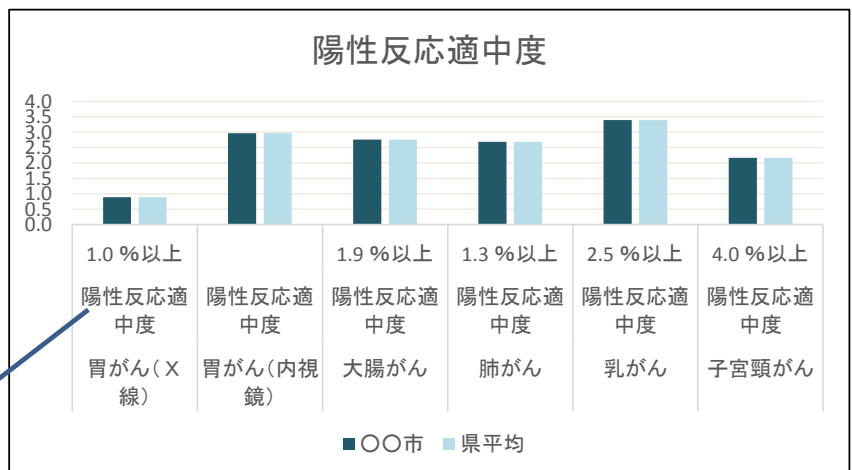
指標値	予想される原因	検討内容
極端に高値	受診者が有病率の高い集団に偏っている	有症状者が検診を受けていないか(有症状者は診療を受けるよう指導する)、有病率の高い年齢層、有病率の高い初回受診者に偏っていないか
低値	①受診者が有病率の低い集団に偏っている	有病率の低い年齢層に偏っていないか(年齢層、受診歴等)
	②偽陰性が多い	各検診機関の要精検の判定基準、検査手技、読影等は適切か

【陽性反応適中度】

その検診において、効率よくがんを発見できたかを測る指標

★基本的に高いことが望ましいが、極端な高値、低値でなく、適切な範囲にあることが望ましい

許容値



指標値	予想される原因	検討内容
極端に高値	受診者が有病率の高い集団に偏っている	有症状者が検診を受けていないか(有症状者は診療を受けるよう指導する)、有病率の高い年齢層、有病率の高い初回受診者に偏っていないか
低値	①受診者が有病率の低い集団に偏っている	有病率の低い年齢層に偏っていないか(年齢層、受診歴等)
	②偽陽性が多い	各検診機関の要精検の判定基準は適切か(陽性反応適中度が低い場合、本来は精検が不要な者を要精検と判定している可能性がある)

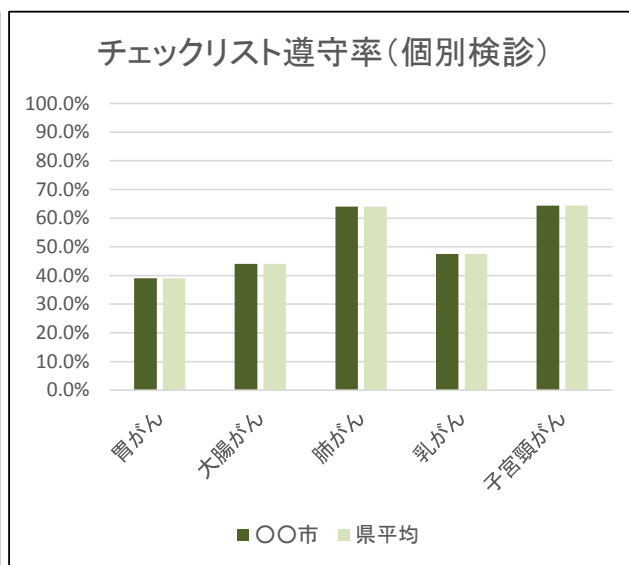
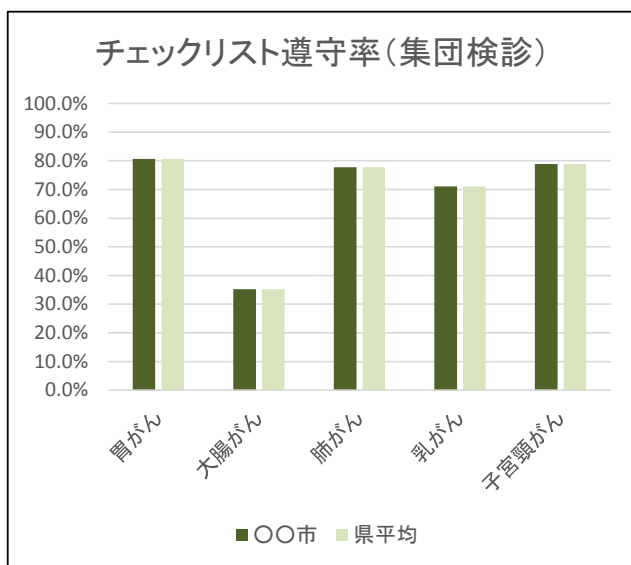
3 平成29年度のがん検診チェックリスト遵守率(県調査)

がん検診事業評価のためのチェックリストにおいて、未達成の項目がある場合は、対応策を検討してください。特に、要精検率が高い場合の分析・対策に有用であることから、検診台帳の整備等により、受診歴別(初回・非初回)の検診結果の把握に努めてください。

※評価基準について A:遵守率100%、B:80~100%未満、C:60~80%未満、D:60%未満、Z:検診実施なし(評価対象外)、指針外の検診実施、未回答等

【集団検診】		胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
	〇〇市	80.7%	35.2%	77.8%	71.1%	78.9%
	県平均	80.7%	35.2%	77.8%	71.1%	78.9%
	事業評価	B	D	C	C	C

【個別検診】		胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
	〇〇市	39.0%	44.0%	64.0%	47.5%	64.4%
	県平均	39.0%	44.0%	64.0%	47.5%	64.4%
	事業評価	D	D	C	D	C



4 その他

委託検診機関の選定に際し、仕様書に精度管理上必要となる項目を明記させることを検討してください。(別添「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」(厚生労働省・がん検診事業の評価に関する委員会)参照)